

実効性ある運用図る デジタル無線運用開始式

消防・救急デジタル無線運用開始式は4月1日、市消防防災センターで開かれ、関係者など約40人が参加しました。

市消防本部では、アナログ通信方式の消防救急無線の使用期限が本年5月31日までであることを踏まえ、4年前から準備を進めてきました。豊里町内に基地局を増やし、使用チャンネル数も6から7波に増設。総事業費は7億891万2千円となっています。

布施孝尚市長は「これまでより、市民の安全安心につながる取り組みだと確信しています。市民の期待に応えられるよう運用してほしい」と式辞を述べました。



布施市長が指令台に座り「こちらは消防本部。本日は晴天なり」と機材と無線の動作を確認しました

未来に向けた一票を 佐沼高生模擬選挙を体験

選挙権年齢の「18歳以上」への引き下げを前に、高校生に選挙を知ってもらう模擬選挙は3月18日、佐沼高校(小野寺清隆校長、生徒701人)で実施されました。これは、同校が県の出前講座を利用して開催したものです。

本市の市長選を想定し、同校の1、2年生約480人が投票。生徒たちは、事前に選挙公報などを参考に候補者を決め投票しました。同校2年の只野尚希さんは「これまでは、テレビの中での出来事でした。選挙は、候補者の政策を理解することと、自分たちの代表を決める大切なものだと感じました」と話していました。



実際の選挙で使われている投票箱と記載台を使用。記載台の前で悩むなど、実際の選挙と変わらない光景が見られました

医師の定着に向けて サテライトセンター開所

東北医科薬科大学登米地域医療教育サテライトセンター開所式は4月1日、登米市民病院で開かれました。

開所式では、福田寛東北医科薬科大医学部長が「地域医療の核となる場所。近い将来、教員の医師を常駐させて、登米地域に貢献していきたい」とあいさつ。布施孝尚市長は「総合医の育成は、地域住民が望むもの。医師不足の解消につながる取り組みに期待します」と述べました。

センターは28年度から稼働し、同大医学部の学生の体験学習や実習などの教育と、地域医療支援を展開していきます。



布施市長(左)と福田医学部長(中)、大野勲医学教育推進センター長(右)が握手。教員の医師は今年から診療も担当します

交通安全活動に尽力 2人が緑十字銀賞を受章

第56回交通安全国民運動中央大会(全日本交通安全協会、警察庁共催)は1月15日、東京都千代田区の日比谷公会堂で開催され、この席上で本市の佐藤哲郎さん(登米町中通)と小野寺篤朗さん(中田町冠木)が緑十字銀賞を受章しました。

これは、多年にわたり交通安全活動に尽力し、多大な功績などがあつた人たちに贈られるものです。2人が受章した緑十字銀賞は、交通安全章で最高位の「金章」に次ぐもの。緑十字銀章の受章は本地区では5年ぶり、一挙に2人が選ばれる快挙でした。



佐藤さん(左)と小野寺さん(右)は、今回の受章について「周囲の支えがあつてのもの」と感謝の意を述べました

新しき良き時代作る 鱒淵地区に炭焼き窯完成

ニュー鱒淵ふるさと会炭焼き窯完成式は4月3日、及甚と源氏ボタル交流館脇で開かれ、同会関係者など約70人が完成を祝いました。

同会は、地区住民と東日本大震災時に鱒淵地区へ避難した南三陸町民、地区で林業に取り組むNPO法人ワーカーズコープ林業チームで構成。同地区の原風景であった炭焼きを復活させようと、昨年準備をしていました。

ワーカーズコープの田中羊子さんは「地域資源を活用し、元気になろうとする価値ある取り組み。多くの人に知ってほしい」と話していました。



同会の小野寺寛一会長は「昔のような、愛ある地域コミュニティ再生のきっかけにしたい」と話していました。

楽しい昼のひととき 市役所ギューハグライブ

H@FM(はっとエフエム)の子育て応援番組「ギューっとハグしよ!」による昼休みホールコンサートは3月23日、市役所迫庁舎で開催されました。

コンサートは、市内初のごospelグループハッピーズと子育て応援バンド「ひだまり」が素晴らしい歌声を披露。また、ひだまりの歌に合わせて、さくら幼稚園の園児たちが元気いっぱい踊り、観客から大きな拍手が送られました。迫町萩洗から訪れた菅原和江さん、惇生君親子は「ラジオでコンサートを知り、聴きにきました。素晴らしい歌声と、子どもたちの踊りに元気を貰いました」と話していました。



さくら幼稚園の園児たちの愛らしい踊りは、コンサートに花を添えました